編集委員会便り

編集実行委員会の構成は目次左欄にありますが，産業界11名，大学研究所関係14名となっております．学際的，業際的な研究会だけに種々の分野の方から成っておりますが，農学部関係からは小生一人席を汚しております．2月に1回の委員会は，おだやかで，しかし筋を通される委員長林先生の司会，研究会の上野事務局長および大塚さんのお手伝いでなごやかに持たれております．特集の検討の際には，内容の一部が既に掲載された特集の一部と重なることがありますが，事務局のお二人は，これまでの雑誌の内容をよく承知してられ，また多くの方をご存じで，さすがにプロと感じることが再三です．農業関係雑誌の編集は一般に，大学や研究所の方が大半を占めており，かって農学関係の学会誌の編集に幹事として携わったことがありますが，このような学際的業際的な委員会への参加は，私としては勉強させて貰いに行っているようなものです．会員読者はこの雑誌をどのように読んでおられるのか気掛かりですが，林委員長の委員会での言にありますように，まとめて読み直して見ますと，正にエネルギーと資源に関するアップデートな百科事典の役割も持っているようです．勿論多くの役割がありますが．これは自画自賛に過ぎましょうか．エネルギーショックを乗り越え，エネルギーの問題が忘れられるようになり，また飽食の時代とも言われて，食糧の問題も牛肉とオレンジを除いては忘れられてきております．戦後の飢餓時代に都会で少年期を過ごした小生は，目の前のエネルギーと資源をついつい考えてしまいます．

今回の特集は農業関係とのことで，遺伝資源が取り上げられました．特集号の内容及び執筆者は委員会で綿密に練られるのが普通ですが，今回は委員会内部に農業関係者がおりませんので，特に，元編集実行委員長の川村登京大名誉教授および京大農学部生物細胞制御実験センターの山田康之教授のご助言を得て立案されました．改めて御礼申し上げます．農業関係のエネルギーと資源の問題は，食糧の需要と供給，食糧生産のためのエネルギー，生物資源の多方面への有効利用（例えばバイオマス），農地の荒廃と砂漠化（生物生産のための土地資源），最近の新聞を賑わしたアメリカ穀物地帯の干ばつ（水資源）等々，多々あるようです．地球の人口は増加率が多少低下しているものの，年々約2パーセントの割合で増え続けています．食糧等生物資源は偏在に問題があるとも言われておりますが，人類にとって，生物関連資源の問題は簡単には解決されないでしょう．

読者・会員カードが綴じ込まれておりますが，テーマや注文をどんどんお寄せ下さい．お寄せ戴いたテーマは委員会資料の中に掲載され，いつも委員会の折り参照されております．この編集委員会便りは，やわらかく書くようにとのことでしたが，役人と国立学校の教師を続けているためか，どうも羽目がはずせません．この号の特集を担当した関係で並河が筆を取りました．

並　河　　清
京都大学農学部農業工学科教授